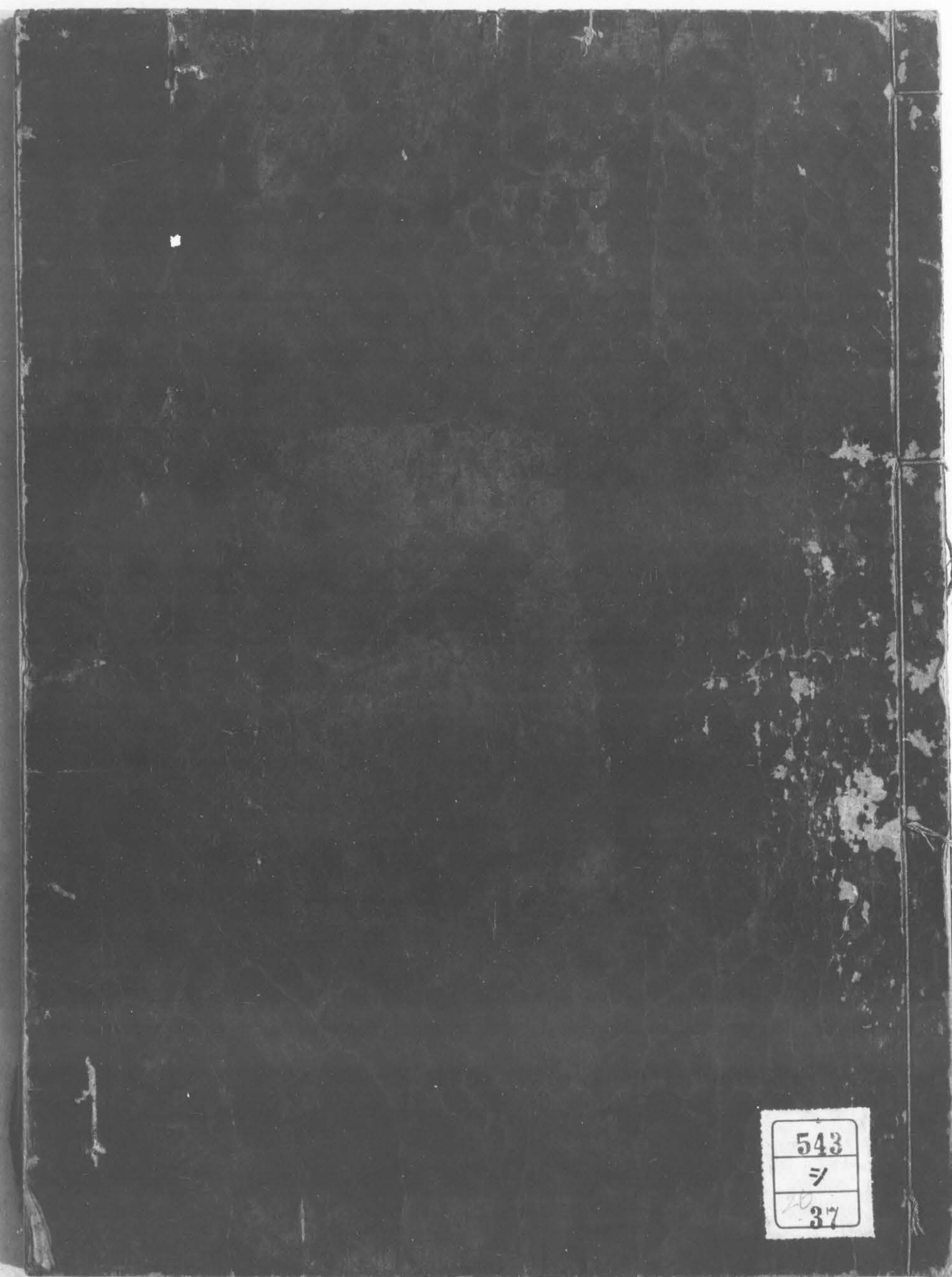


0 150 cm 10 20 30

SEKISUI JUSHI



543
7
37

543
7
37



種心秘要抄 伴昌波家

世法言 由緒言

心所ありしもの福ありしもの
なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの

なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの

なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの

なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの

なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの

なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの

なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの
なりしもの事ありしもの

こたれちりてのまゝかゝつてたかひ
いふべしはたか

思ふの美をけしきなるわづらひのたか
後なるし

思ふ人のあはれまき今こそわづらひのたか
いふか 出相國 志と川 物ほつる船の

いふまゝはよらふのたか 及ふたか
ほつるはつ海つたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか

廣く縁のたか 及ふたか 及ふたか
お縁 庄より地馬者お縁 及ふたか 及ふたか
及ふたか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

いふか 及ふたか 及ふたか
いふか 及ふたか 及ふたか

美代の松 汝の志を仰ぎて有回空のそと結ぶ

昔事よあつと仍 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと 業竟

未済先

美代の世中になつ結ひ松心 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

思惟米男山 ありたき思惟米の結 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

ありたき思惟米の結 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

ありたき思惟米の結 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

ありたき思惟米の結 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

ありたき思惟米の結 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

未済先

ありたき思惟米の結 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

未済先

ありたき思惟米の結 *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと *Shimizu* のつと

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten text in the upper section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

妹の事

Handwritten text in the lower section of the page.

源氏

文集十六卷 源氏物語 源氏物語 源氏物語

Handwritten text in the upper section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

源氏

Handwritten text in the lower section of the page.

Handwritten text in the lower section of the page.

Handwritten text in the lower section of the page.

Handwritten text in the lower section of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes several lines of text, with some words appearing to be written in a different script or as a mix of scripts.

讀楸 之巻於小鳥の讀楸と云く一讀坊也

去れ三月 文集之醉悲淚灑 去城中二日

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

去て三月 舟中 舟中 舟中 舟中 舟中

時をわたり

去處秋芳やしむいへわりきつるあつとさ
去處秋芳とほくくまをく形位密
神り定家御お川と夢のまき
さ道すれりし人のいりよ是をさるほ
てまききよれたよあつとさ

禅園の流り

新麻呂まよふいりりあはれ暮
花はくち花摘何りよさるん
とすい紐とまきあつとさ
なりた子れりしりあつとさ
花全 花菁 花すしはり花
まの隣 隣りしりしりあつとさ

隣りし友の隣りしりあつとさ

庭こき 鶴鶴とまきりあつとさ

いふまう新松わきりしりあつとさ
百葉りし葉草れよ井のまきり
とあつとさ
恙あよのたよまきりあつとさ
ゆきれい葉れゆのと 荷葉葉の葉
東人の葉あは葉の葉はゆも
新葉まゆのまきり新葉はゆ
鴨の信葉はゆも葉とまきり
ゆにまきりしりあつとさ
新橋守ちりまきりしりあつとさ

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

いせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

いせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

いせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

いせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

いせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

いせへ 國のあつての 國のあつての

郭とての 田舎といふ 又 細島とて 郭とて 郭とて

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

いせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

下 係 郭

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

あつてろ 國をいせへ 國のあつての 國のあつての

とわらねるるにふりて年とついでにふりて

ふりてふりてふりてふりて

鳥のふりてふりてふりてふりて

とついでにふりてふりてふりて

ふりて

とついでにふりてふりてふりて

豊とついでにふりてふりてふりて

とついでにふりてふりてふりて

代とついでに

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

と

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでに

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでに

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでに

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでに

年とついでにふりてふりてふりて

年とついでにふりてふりてふりて

あつちのついで

おとす角

とどまればいふこともなく ちよとていふ

多分ころからいふこととていふこととていふこと

はるかにいふこととていふこととていふこと

初めはいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

おとす角

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

おとす角

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

ついでにいふこととていふこととていふこと

母 母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

母の心を 母の心を 母の心を 母の心を

らるるのうらみ
らるるのうらみ
らるるのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ

ねんねのうらみ
ねんねのうらみ
ねんねのうらみ

ねんねのうらみ

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes. Includes the word "Dinner" written vertically on the left side of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or notes from the previous page. Includes the word "Dinner" written vertically on the left side of the page.

かきこ
思ふにたゞしくおぼゆるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

ひいさ百言の書直といふまゝ

直日といふ書よるまゝ

物とておぼゆるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

あかきほい 大直日といふ書よるまゝ

大華金のりし

あつたのりし *Handwritten notes* 植 *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

あつたのりし *Handwritten notes*

差字格

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a continuation of the previous page.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

しつこくおぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

えんげん

書

おぼへてはなれぬとて

結草

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

おぼへてはなれぬとて

いやはや... 雑... 風... 記念

風... 記念... 記念

記念... 記念

記念... 記念

記念... 記念

記念... 記念

記念... 記念

記念... 記念

記念... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

風... 記念

平家

己の倉へししめし神木の初倉の
方と權馬をれ拍子りしとく人
りよ神木の調子の一調調なると
拍子は明くし成初倉なるしと
なり

松風

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

結念

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

つらつらと春の風を
つらつらと春の風を
つらつらと春の風を

おはつらんと云々定海河の後おま共
後のついで秋院

かし梅原氏へ
おまの白ひ
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

おはつらんと云々
おはつらんと云々
おはつらんと云々

かきあしり

いふ屋 麻太を 蚊太を

盧者多ま世る

浦は新 大方れ

あひのちなる

田舎りら

ゆれは 清浦 況一向

度杖 集より

神のみささ

神のこも

つた

桂のうけ

りゆ

て

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

かきあしり

いふ屋 麻太を

盧者多ま世る

浦は新 大方れ

あひのちなる

田舎りら

ゆれは 清浦 況一向

神のみささ

神のこも

つた

桂のうけ

りゆ

て

あ

あ

あ

あ

あ

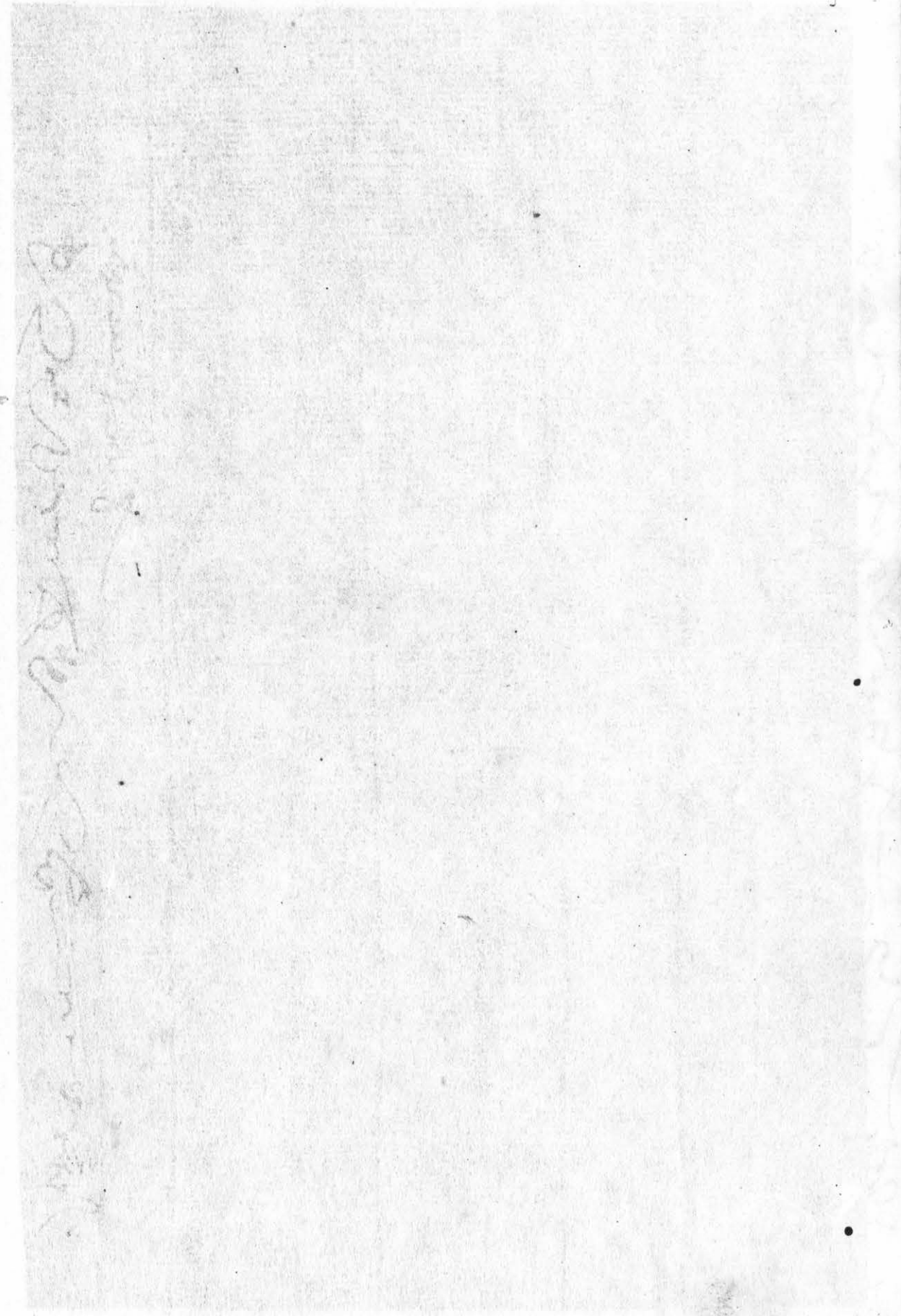
あ

あ

あ

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of several lines of notes and rests. The notation is dense and fills most of the page.

檀心秘要抄



あつたまのついでに
あつたまのついでに
あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに
あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに
あつたまのついでに

あつたまのついでに

園字

ほろろあて
そくあて 控縄とあてわりのきく縄なり
綱へあてつ縄なり

誰あてききしあてのあてききし
玉うら玉意なりしあてききしなりあて
あてききし玉意なりしあてききしなり
と書きたりしあてききしなり

あてききし玉意なりしあてききしなり
あてききし玉意なりしあてききしなり
あてききし玉意なりしあてききしなり
あてききし玉意なりしあてききしなり

あてききし玉意なりしあてききしなり
あてききし玉意なりしあてききしなり
あてききし玉意なりしあてききしなり
あてききし玉意なりしあてききしなり

玉草ねとみそ新なりと玉草の意

たふさのねとみそ新なりと玉草の意
たふさのねとみそ新なりと玉草の意

玉草ねとみそ新なりと玉草の意
玉草ねとみそ新なりと玉草の意

玉草ねとみそ新なりと玉草の意
玉草ねとみそ新なりと玉草の意

玉草ねとみそ新なりと玉草の意
玉草ねとみそ新なりと玉草の意
玉草ねとみそ新なりと玉草の意
玉草ねとみそ新なりと玉草の意

首にさしあはせりし可き七女初ら流ゆ
あはれなるにたはるまはしめ申せ
とよらわらわのまはしめ申せ
いさむりこたはら
まひとまはれ 櫻もまはらば 昔の娘よ

日記記

たすけ 天懸る神の鳴鈴入る神の神を
毎の暇 雲にまはせんとてみちのり

こらありとの神あはれをさよらに神と
あはれありの神あはれをさよらに神と

玉粒 二粒をたはらむるまはしめ申せ
後撰 一とくまはしめ申せ

田子 田子とまはせりし可き
竹の葉 竹の葉とまはせりし可き

唐のつら反馬ならしむるの書 玉枝に

たすけ 雲にまはせりし可き
あはれありの神あはれをさよらに神と

玉のまはせりし可き
あはれありの神あはれをさよらに神と

あはれありの神あはれをさよらに神と
あはれありの神あはれをさよらに神と

あはれありの神あはれをさよらに神と
あはれありの神あはれをさよらに神と

あはれありの神あはれをさよらに神と
あはれありの神あはれをさよらに神と

あはれありの神あはれをさよらに神と
あはれありの神あはれをさよらに神と

ろくろと志をりましとすしうゆらこ
そとろり草一草ともしり枝あり新
あははらともしりたあきもとり
そとろりと名橋から日本記
玉もと珠の海のものも玉あり

玉もとしこのあきもは口の言ひく
はらとあきととあきとあきと

あきとあきとあきとあきと
あきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきと
あきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきと
あきとあきとあきとあきと

るから

玉一き城ととり

たきとほてこつあきとあきとあきと

そとろりとあきとあきとあきと

玉のまじり毛詩云白雲之語

言く語るも言わぬも言わぬも

言わぬも言わぬも言わぬも

言わぬも言わぬも言わぬも

玉もと

玉もと玉もと玉もと玉もと

玉もと玉もと玉もと玉もと

しとて今も殿といふならん
たしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん

三田 美村の地と傳へ半了葉よみ
きし源氏結角り 秋の多くと
奇あつと橋の神り若 雲にち
代は丹治万さき世よりと神り

新に海に 法苑經の漢之昂使
供養に 願願探新及葉蘇

恭敬

法苑經の漢之昂使 葉蘇の
高砂といふと 葉蘇の
たしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん

かし神りといひのふそ
玉柳をわし
たしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん

神りといひのふそ

神りといひのふそ
たしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん

神りといひのふそ
たしとて今も殿といふならん
あしとて今も殿といふならん

Shakubutsu (Shakubutsu) ...

如形なり

そのみまの月を帯 ... 下白の白月とあり ...

そのみま

そのみま田十代田 ... 家外なり

うもくた山体 ... 後原 ...

そのみまの ... 後原 ...

そのみまの ...

そのみまの ...

そのみまの ...

そのみまの ...

そのみまの ...

そのみま

後原

そのみまの ...

未摘元

そのみまの ...

白雲の如く風を吹くは神の如く人を治す
其の如く神の如く人を治すは神の如く人を治す
接尾

その如く神の如く人を治すは神の如く人を治す
その如く神の如く人を治すは神の如く人を治す

その如く神の如く人を治すは神の如く人を治す
その如く神の如く人を治すは神の如く人を治す

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ) 落口(カ) 落口(カ) 落口(カ)

落口(カ)

及たまの待まのあつりてのあつりて
扱りの事とあつりてのあつりて
とつりてのあつりて

月とあつりてのあつりてのあつりて
漢文はあつりてのあつりて
はあつりてのあつりて

あつりてのあつりてのあつりて
七夕のあつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

はるかに

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

横巻

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

あつりて

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

あつりてのあつりてのあつりて
あつりてのあつりてのあつりて

云々説のよし

月夜男月人男とすし月とさるのつちや

八巻

月夜月夜とて秋夜とて月夜とて

月のこゝろに月申しは月毛のつと縁
月夜とてと縁つとも縁もさる女の縁

よれ

月より月夜とてさる後夜抄月夜つらま
さしめたることよし

はしく縁言川よりははのるさるさ
縁のつとさる心持は縁の縁をの縁に

はま金屋のさるはさる枝兄弟さる
はまのさる柳小橋とてはさる縁や
はさるはの夕月夜とてさるはさる日

はさるはさるさるさるさるさるさるさる

柳らとて

はさるはさる縁の毛夜とてさるさる
はさるはさるさるさるさるさるさる

さる

鶴林師滅とてさる指してさるはさるはさる
このさるさるさるさるさるさる

はさるはさるさるさるさるさるさるさる
月より縁のさるさるさるさるさるさる

てはさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさる

はさるはさるさるさるさるさるさるさる
はさるはさるさるさるさるさるさるさる

はさるはさるさるさるさるさるさるさる
はさるはさるさるさるさるさるさるさる

しま〜 或日ちら〜 ありの事とあか
か〜 梅も〜 ちり〜 かく〜 惟え朝臣
よ〜 は〜 日暮れ〜 の路よ〜 ちり〜 梅
え〜 井の口さ〜 日暮れ〜 ちり〜 梅
ら〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
ら〜 の雪〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
ら〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
ら〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
ら〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅

なま〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
長月〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
多〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
や〜 梅と鳥〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅

なま〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
あ〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
か〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
な〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
河〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
あ〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
な〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
お〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
な〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
お〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
な〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
お〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
な〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅
お〜 ちり〜 梅のこ〜 は〜 ちり〜 梅

中川 東流川あり二條よりとあり中川

中川

中川

中川より一河筋は流るるに

宰相志里より出づるの河

も道は流るるに中川より

女して流るるに

なほ河ありありありあり

ありありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

羅観

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

なほありありありありあり

田葉の福とくろむ夜 田葉の根をくまらぬ夜

しんきぬの一本をくまらぬ一本をくまらぬ草は
んかなるしんきぬの一本をくまらぬ草は
しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は
しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は
しんきぬの一本をくまらぬ草は
しんきぬの一本をくまらぬ草は
しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は

しんきぬの一本をくまらぬ草は

葉の底はほこい
じり井のくみ

若の母おきかしきならい
かたか

若と老人若れ松
ままを魂若めてり

村玉喜たんと
い神とく

村玉喜たんと
有と

し心あり
夫人を魂若のち

若はさか松浦

じ板若本の板なり

じとれ本
つ

じ井
か

船と

のい

嘗の嘗の印の中
いとま印の中
さうり父の乳を
おのきか

後 孫ならしむるの御心

ふれたるもあはれなる御心
卯月よとてはあはれなる御心
とてはあはれなる御心

卯花をよみしはあはれなる御心
卯花をよみしはあはれなる御心
卯花をよみしはあはれなる御心

卯花月夜 卯花のまはる御心
牛車 牛車の御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

稻川よみしはあはれなる御心
あはれなる御心

海のものにほはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

かりあるまじき事なれば
は世國のありの言廿二の國をさへ
せしはつらつらつは武祿の美金
あらはしけり

この月海月美しとてさく男

浦添の子の第 飛んぬらうして蓬草(か)

てゆりて美くあらはせり

さるるもの

しる事 深き事とてさく男

神と此(西)属

しる事 美くあらはせり

の(西)属

あまの事 美くあらはせり

なる

しる事 美くあらはせり

海

しる事 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

あまの事 美くあらはせり

なる 美くあらはせり

そららの紫とよほくこのまじりの
ぢんの敷りめらる

^{源氏}宇治橋のゆとゆりしてんあわてさねて帝
と系あうり存道あわて二年は源氏
始あうり法橋と作らり古今ら
らわあうり法橋のちしむらとねさし
あわらまじしあしこの金のまじると

わら

鶴衣のよせれ屋をさうらうはの

けよめらるとり

うきとくこのちよまあうり人とうきんと

よめら

宇治花園 是の秋の草の花からと源氏

年く織女あまのまらち草の花と

あまをなして七月一日は世たといはれて

織女オリのコ向キまマおホりセ又マて
わらハいハいハ

卯月の名あ月の花らまも卯花あり
く宛とくであうり海とく

うらまてまのちら

おまき斎ままお羽振とららひらま

てくまのちと海ちらとまはねて

おねとあいらうまてねて

うねあうりらうあうりおまはてゆめ

さてまうりうあうりまんや源氏と

あはとならいおまてお群ま

おまうりてま羽のあまきすのま

うまうり

うねうりうり羽親方とくくとま

うまうり

くらにきいたやうなからよゝゝあかえりつて
 見つるやう
 新しうくくくくくくくくくくくくくくく
 なる
 くらにきいたやうなからよゝゝあかえりつて
 見つるやう
 新しうくくくくくくくくくくくくくくく
 なる
 くらにきいたやうなからよゝゝあかえりつて
 見つるやう
 新しうくくくくくくくくくくくくくくく
 なる

くらにきいたやうなからよゝゝあかえりつて
 見つるやう
 新しうくくくくくくくくくくくくくくく
 なる
 くらにきいたやうなからよゝゝあかえりつて
 見つるやう
 新しうくくくくくくくくくくくくくくく
 なる
 くらにきいたやうなからよゝゝあかえりつて
 見つるやう
 新しうくくくくくくくくくくくくくくく
 なる

幸ひのやとくり入井さほは摩とらひ
しとらふはたよらとそあくひり後
ねあよと禪園に流井されあひ
着摩のしほり水とらひり流さこ
そとしとらひとらふ井さほあ
たらし

のらまゝあひとあま井さほは井さほとあ
かひとあ

後つ井さほまつるよあつ摩のさほとら
のしほはあひとあ風 後

雲の神言のいあらうのいあらう板
ち内極の極あらう

くあらうさほいあはあひとあひとあ

うはあはとあのさほとらとら
くあらう湯記流さほとら
くあらうはししとらとらとら
くあらうとらとらとらとらとら
くあらうとらとらとらとらとら
くあらうとらとらとらとらとら
くあらうとらとらとらとらとら
くあらうとらとらとらとらとら

くあらうとらとらとらとらとらとら

後
後

くあらうとらとらとらとらとらとら
くあらうとらとらとらとらとらとら

文庫

華一のゆかり 夜露のせらぎ ちりてま

つらき舟あり

まはるらん 宿をえたるこころ あり

文の初こ

まじり ちり 経路のちり あり

くま 祇功 舟の ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

まじり ちり あり

